

女子校での豊かな人間教育とは

近年、親世代の共学志向の高まりなどを背景に、男女別学であった学校が共学化する傾向にある。しかし、男女の違いをふまえた男女別学での教育には、様々な効果があるとされる。『なぜ男女別学は子どもを伸ばすのか』（学研新書）の著作もある教育コンサルタントの中井俊巳氏に、男女別学、特に女子校での教育の効果や生徒にもたらす豊かな可能性について、話をうかがった。



作家・教育コンサルタント
日本男女別学教育研究会代表

中井俊巳氏

男子と女子では行動も、成熟の速度も、学習態度も違う。

男子と女子は体が違うように脳も違います。成長段階での男女の違いとしては、まず言語能力の違いが挙げられます。女子は男子より言語能力が高く、聞こえ方も違い、聴力も優れています。一方で、男子は空間認知能力に長けています。記憶や感情の処理の仕方、読書の多寡や内容も男女で違いますので、学習の仕方や得意科目も変わってきます。さらに特徴的な違いは、成熟の速度です。女子は身体的にも精神的にも男子より速く成熟します。この違い、なかでも知的能力の発達速度の違いは、学習習得効率にも差をもたらします。

男女の特性に応じたきめ細やかな指導が可能になる男女別学教育。

こうした様々な違いを考えますと男女の特性を踏まえた、学習に集中しやすい環境や異なる成長ペースに対応した指導、サポートの提供など、別学の大きなメリットが浮き彫りになります。

行動の違いや学習態度の違いもはつきりしています。一般的に男子は行動が活発で落ち着きに欠け、先生に言われたとおりに勉強することが苦手です。一方で多くの女子は静かに過ごすことを好み、授業中も行儀よく振る舞い、勉強することができます。また、男子と女子では人のかかわり方が違うことも大きな特徴です。教師との関係で言えば、女子は教師から大切にされたいと思いいい関係を持つことを好みます。これに対して男子は教師に「尊敬できること」を求め、ときには教師に挑発的なことを言うてみたりもします。

そして、別学は学力面でも教育効果が高いことを、国内外の様々なデータが示しています。一つの目安として東大合格者数を見てみるとトップ10のうち9校が別学。また、東大合格者10名以上の学校のうち4割が別学です。別学の学校数は全体の1割にも満たないのですから、進学面での優位性は明確です。

女子生徒の可能性を広げる、女子校での教育。

女子の教育については、別学教育システムの利点は特に大きいと思います。

企画・運営能力を育み、適切なサポートが強味。

男女別学校での教育の具体的なメリットに、生徒が「異性の目を気にせず様々なことに素直に関心を抱き、才能を思い切り伸ばすことができる。」ことが挙げられますが、女子校においては「女子がリーダーシップを発揮したり、主役になる機会が増える」ことも加わります。学校行事などの際、共学では活発な男子がリーダー

的な役割を担う傾向にありますが、女子校では女子だけで運営しなければなりません。結果的に企画・運営能力を養いリーダーシップを発揮する機会に恵まれ、将来的な可能性を広げることにもつながります。

また、思春期の女子は心身両面で男子以上に様々な悩みを抱えています。女子教育のスペシャリストが揃う女子校ならば、生徒が悩んでしまった際に適切なサポートが受けやすいといえます。

さらに女子校は女性教師の割合が高く、また重要な地位に就いているケースも多く、生徒達は「女性も社会で活躍できる」というロールモデルに日々接することができます。このことは、夢や目標を持つて学習していく上での意欲づけや支えとなることでしょう。

女子校ならではの「全人的な教育」。

「情操教育・しつけ」「社会性の習得」についても、女子の繊細な心理を考慮した指導が受けられることも、女子校ならではのといえるでしょう。

このような教育を通して、女子校は、家庭であれ社会であれ自分が属する場で、人に思いやりを持ち、品位ある行動をとることができる賢い女性をより多く育てられるのではないのでしょうか。その意味で女子校の役割は社会的にもとても大きく、また女子校で教育を受けることの意義も大きいと、私は確信しています。

広告

〈企画・制作〉
日本経済新聞社西部支社
クロスメディア営業部

平成23年度 学校説明会情報

Five large empty rectangular boxes for contact information or additional details.